研究報告

鳴門教育大学学校教育実践センター紀要　19，177－182，2004

「家庭総合」教科書における生活課題の取り扱い

－食品の安全性・食と栄養・衣生活文化・衣服のサイズ表示に関する記述の考察－

Analysis of Integrated Home Economics on Subjects of Living

－ Focusing on Safety of Food, Food and Nutrition, Culture of Clothing Life and Size Indication of Clothing －

以西　真弓*，齊藤　良子*，中山智栄子*，吉兼　悠子*，鳥井　葉子**

*〒772－8502　鳴門市鳴門町高島字中島748　鳴門教育大学大学院

**〒772－8502　鳴門市鳴門町高島字中島748　鳴門教育大学 生活健康系（家庭）教育講座

Mayumi ISAI*，Ryoko SAITO*，Chieko NAKAYAMA*，Yuko YOSHIKANE*，Yoko TORII**

* Graduate course, Naruto University of Education, Naruto-cho, Naruto-city, Tokushima 772-8502, Japan

** Department of Health and Living Sciences Education (Home Economics) Naruto University of Education 748 Nakajima,Takashima, Naruto-cho, Naruto-city, Tokushima 772-8502, Japan

抄録：「家庭総合」教科書における生活課題の記述を検討し，今後改善すべき点をあげた。食品の安全性については食の安全性に関する新たな課題を取り上げること，食と栄養については高校生の食生活の実践を促すための具体例を，衣生活文化については実習例を多く取りあげること，サイズ表示に関しては的確な記述が求められる。

キーワード：家庭総合，食品の安全性，食と栄養，衣生活文化，衣服のサイズ表示

Abstract：Abstract：The purpose of this study was to analyze subjects of 1iving in Integrated Home Economics. The results were as follows: 1. The new subjects about safety of food are necessary to learn. 2. Food and nutrition have to be described with specific ezample to practice for high school students. 3. Culture of clothing life are necessary to learn with the practical lerarning. 4. The size indication of clothing have to be described accurately.

Keywords：Integrated Home Economics, Safety of Food, Food and Nutrition, Culture of Clothing Life and Size Indication of Clothing

Ⅰ．はじめに

2003年度より実施されている高等学校「家庭総合」の目標は「人の一生と家族，子どもの発達と保育，高齢者の生活と福祉，衣食住，消費生活などに関する知識と技術を総合的に学習させ，生活課題を主体的に解決するとともに，家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる」[1]ことである。

現代における生活課題のうち，「家庭総合」の学習内容に設定されている食品の安全性，食と栄養，衣生活文化，衣料のサイズ表示を取り上げ，高校生が主体的に解決する力を培うために適切な学習内容・方法を明らかにしたいと考え，「家庭総合」教科書の内容の比較，検討をおこなった。

これら４つの生活課題にかかわる「家庭総合」の内容は，高等学校学習指導要領およびその解説では，次の通り記述されている。

食品の安全性にかかわる内容は，「(4)生活の科学と文化」の「ア食生活の科学と文化」において「栄養，食品，調理などについて科学的に理解させるとともに，食生活の文化に関心をもたせ，必要な技術を習得して充実した食生活を営むことができるようにする。」である。また，その解説において，「(エ)食生活の管理」で「食生活の多様化や食環境の変化を取り上げ，食生活と健康の関連を理解させるとともに，食品の腐敗や返敗，食中毒などを取り扱う。近年の食品の安全性について，例えば，食品添加物，輸入食品などの問題点に触れながら，健康や安全に配慮した食生活の管理ができるようにする。」と記述されている。

また，食と栄養に関しては，上記の(4)の「ア食生活の科学と文化」の解説(エ)に加えて，「(ア)人間と食べ物」では，「長い歴史の中で培われた食生活の工夫や知恵，各地の気候風土に合った保存や加工の技術などを取り上げ，人間と食べ物とのかかわりや食事の意義について考えさせ

る。また，我が国の食生活に変遷の特徴についても概観させ，現在の食生活に関心をもたせる。」，「(イ)栄養と食事」では，「栄養素の種類と機能について理解させるとともに，栄養所要量などの栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を自分や家族の日常食と関連させて理解させ，家族の栄養や嗜好に対応し，調理の能率，経済面などを考慮した適切な一日の献立が作成できるようにする。また，日本食品標準成分表を活用して，食事を栄養価計算ができるようにする。」とあり，さらに「(ウ)食品と調理」では，「日常用いられている主な食品及び実習で用いる食品の栄養的特質について，食品群との関連を図り，日本食品標準成分表を用いるなどして理解させ」と記述されている。

一方，衣生活の文化に関して，学習指導要領では前述の(4)の「イ衣生活の科学と文化」で，「被服材料，被服の構成，被服製作，被服整理などについて科学的に理解させるとともに，衣生活の文化に関心をもたせ，必要な技術を習得して充実した衣生活を営むことができるようにする。」とあり，また，「エ生活文化の伝承と創造」において，「衣食住にかかわる生活文化の背景について理解させるとともに，生活文化に関心をもたせ，それを伝承し創造しようとする意欲をもたせる。」と記述されている。

最後に，衣服のサイズ表示に関しては，学習指導要領の上記の(4)の「イ衣生活の科学と文化」の解説の「(ウ)被服の構成と製作」において，「着心地のよい服は，体格や体型，体の動きに合っており，着用目的に合った被服であることを理解させる。また，被服の構成方法は，大きく分けて立体構成と平面構成とがあり，人間が長い歴史の中で知恵と工夫によって発達させてきたもので，それぞれの特徴をもった形と縫製技術をもつことに気付かせ，被服の製作ができるようにする。題材については，身体の躯幹部を覆う「衣服」を中心として扱い，中学校での学習経験と関連を図り，学校及び生徒の実態に応じて適切に設定する。また，体格と衣服寸法の関連から，サイズ表示にも触れる。」と記述されている。

Ⅱ．方　　法

平成16年度使用「家庭総合」教科書7社8冊[2]について，着目した四つの生活課題にかかわるキーワードを設定して，それらの記述の内容を比較・検討した。キーワードは，食品の安全性に関しては7個，食と栄養については7個，衣生活の文化については10個，衣服のサイズ表示については11個である。

Ⅲ．結果と考察

1．食品の安全性に関する内容の記述

「家庭総合」教科書の食品の安全性に関する内容の記述について，食品衛生法，消費期限と賞味期限，食中毒，食品の保存，農薬，遺伝子組み換え食品の7個のキーワードおよび食中毒に関する小項目5個（種類と特徴，原因例，対策・予防，発生場所・件数，写真），食品添加物に関する小項目4個（種類と目的，表示例，代表的な食品例，キャリーオーバー）を設定して検討した。その結果は次の通りである。

KAにおける食品の安全性の記述は少なく，食中毒の対策・予防法については記載されていない。

表1　食品の安全性に関する記述の比較

キーワード＼教科書	KA	KY	J1	J2	TA	DA	TO	H
食品衛生法		○		△	○	◎*	○	○
消費期限と賞味期限	◎	○	◎*	◎	△	◎*	○	
食中毒	○*	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*
種類と特徴	＋＋	＋＋	＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋
原因例		＋＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋＋	＋＋
対策・予防		＋＋	＋＋	＋	＋＋	＋＋	＋	
発生場所・件数		＋		＋				
写真		＋				＋		
食品の保存	△	◎*	◎*	◎*	◎*	◎	◎*	◎*
食品添加物	◎	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*	◎*
種類と目的		＋＋	＋＋	＋	＋＋	＋	＋	＋
表示例				＋＋		＋＋		＋＋
代表的な食品例			＋＋		＋＋			
キャリーオーバー			＋	＋	＋		＋	
農薬	◎			*	○	△	○	△
遺伝子組み換え食品	○	◎*	◎*	○	○	◎*	◎*	△

注1）◎は項目が設定，○は関連ある事項が掲載，△は用語のみ掲載されていることを示す
注2）＊は関連する写真や絵，図，表が掲載されていることを示す
注3）＋＋は各小項目についてかなり多く，＋は取り上げられていることを示す

KYでは，取り上げられているキーワードについて写真，絵，表が多く用いられているため理解しやすい。また，食中毒に関する記述では，病原菌の写真や予防のポイントまで明確に記されている。遺伝子組み換え食品についても表示制度が詳しく説明されている。

J1では，取り上げているキーワードすべてに項目が設定され，また，絵を用いて分かりやすく表示されている。しかし，食品衛生法と農薬については掲載されていない。食品添加物については，種類と目的，代表的な食品例がわかりやすい表に示されている。

J2は，キーワードすべてを取り上げているが，絵や写真が少なく理解しやすい表現とはいえない。食中毒については詳細に記載されている。食品添加物に関しては，項目を設けて表も掲載されているが，取り上げている種類や説明が少ない。

TAはキーワードをすべて取り上げている。食品添加物については，種類と目的だけでなく，利用用途や添加物の表示免除など，かなり詳しく記述されている。しかし，消費期限と賞味期限については，用語のみで日数などの説明がされていない。

Dもキーワードをすべて取り上げている。食品の保存については，項目を設けてあるが，説明が少なく，冷蔵庫・冷凍庫の使い分けの説明が書かれていない。消費期限と賞味期限の説明は絵で説明されていて分かりやすい。また，食品衛生法については，巻末解説資料の“日常生活に関連の深い法律・施策”で取り上げられている。

TOもキーワードをすべて取り上げている。食中毒については，表を用いて原因菌の種類別に予防方法の要点がまとめられていてわかりやすいが，発生状況や発生場所については記述されていない。また，食品添加物に関して利点・欠点の記述があるが，種類と目的はわかりにくい。

Hでは消費期限と賞味期限を取り上げていない。全体的にキーワードの説明が少ない。食中毒についても予防方法が記述されていない。高校生に身近な清涼飲料水・ソーセージに使用されている食品添加物が取り上げられてわかりやすいが，他の食品添加物の記述はない。

食品の安全性に関する教科書の記述から，全体の傾向をみると次の通りである。7個のキーワードは，記述のしかたに違いはあるがほとんどの教科書で取り上げられている。食品添加物については，ほとんどの教科書で文章や表・絵を用いて説明がされていたが，高校生の理解を深めるには簡単な実験を同時に取り上げることが望まれる。なお，現在，日本の多くの食品は，輸入に頼っており，そこで生じている問題についても取り上げることが必要であると考える。また，現代の食生活において，狂牛病（BSE）問題や，鳥インフルエンザの問題など安全にかかわる生活課題は世界的規模で深刻化している。学習指導要領において，「問題点に触れながら，健康や安全に配慮した食生活の管理ができるようにする」とあるが，現状を把握し解決するための方法などが分かりやすく表や絵で表されているTAの記述は高校生の日常生活に結びつきやすいものであろう。

2．食と栄養に関する内容の記述

「家庭総合」教科書の食品の安全性に関する内容の記述について，食物と体の関係，食生活の現状，食生活の見直しとこれからの食生活，栄養素の種類とその働き，栄養所要量，栄養価，食品群別摂取量の目安の7個のキーワードを設定して検討した。

Dにはキーワードすべてが記述されている。

J1では，食物と体の関係について，生理機能・嗜好機能が記述されていない。また，食生活の見直しとこれからの食生活に関して，チェックコーナーや食生活指針を取り上げているが，食生活指針の詳しい説明がない。

TOには，食物と体の関係に関して，生理機能・文化機能についての記述がない。また，食品群別摂取量の目安を高校生に捉えやすくするために必要と思われる各食品群に属する食品重量についての事例は取り上げられていない。

KYでは，食物と体の関係に関して，嗜好機能についての記述がない。また，食生活を見直す手立てが記述されていないが，これからの食生活に関連させて食生活指針を詳しく記述している。栄養価については，パソコンソフトを用いた操作手順のみを取り上げており，手計算による記述はない。食品群別摂取量の目安を高校生に捉えやすくするために必要と思われる各食品群に属する食品重量の事例の記述がない。一方，栄養素の説明が，3群（エネルギーとなる・からだをつくる・からだの機能

表2　食と栄養に関する記述

教科書＼キーワード	食物と体の関係	食生活の現状	食生活の見直しとこれからの食生活	栄養素の種類とその働き	栄養所要量	栄養価	食品群別摂取量の目安
D	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊
J1	○	●	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊
TO	○＊	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊	○＊
KY	○	●＊	○＊	●＊	●＊	○＊	○＊
TA	●＊	○＊	●＊	●＊	●＊	●＊	●＊
H	●＊	●＊	○＊	●＊	●＊		●＊
KA	●	●＊		●＊	●＊		●＊
J2		●＊	○＊	●＊	●＊	●＊	●＊

注）●詳しい記述がある，○記述がある，＊関連のある絵や表，写真，事例が掲載されている。

を調整する）に分けてされており，食物の体への働きと栄養を関連付けながら考えやすくなっている。

TAには，食生活の現状に関して，食事状況の記述はあるが，栄養状況の記述はない。また，食生活の見直しとこれからの食生活に関して，J1と同様に，チェックコーナーや食生活指針の記述はあるが，食生活指針の詳しい記述はない。

Hでは，チェックコーナーなど食生活の見直しの記述はあるが，これからの食生活についての記述がない。また，栄養価計算方法は記述されていない。一方で，食生活の見直しに関する記述の内容は豊富である。

KAには，食生活の見直しとこれからの食生活に関しての記述，栄養価計算方法についての記述がみられない。しかし，食生活の現状に関する資料は充実している。

J2には食物と体の関係に関する記述はみられない。また，チェックコーナーなどの食生活の見直しに関する記述はあるが，これからの食生活に関する内容は少ない。栄養素の種類と働きに関しては，五大栄養素に加えて水に関する記述もあり，詳しく説明している。

以上の結果から，今後，さらに食と栄養に関して次の記述を改善すべきであると考える。まず，食生活指針を位置づけ，食生活を見直すポイントを幅広く捉えさせる。次に，栄養の種類とその働きおよび食品群別摂取量の目安の記述に関しては次のように考える。学習指導要領に「栄養素の種類と機能について理解させるとともに，栄養所要量などの栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を自分や家族の日常食と関連させて理解させ，…」とあるように，すべて教科書に記述されているが，食品群の目安を理解させる上で文字のみにとどまっているものが多く，食品の概量等の事例を記載して高校生に実感させ，日常生活での実践に発展できるような配慮が必要であると考える。また，栄養素の種類とその働きの記述に水を取り上げることが必要である。五大栄養素に加えて水に関する項目を立てて取り上げているのは，8冊の教科書のうち1冊のみである。しかし，深刻な事態を引き起こす脱水症状を予防して健康な生活をおくる上で，水の働きと摂取のしかたを理解し実践を促すような記述が望まれる。

3．衣生活の文化に関する内容の記述

「家庭総合」教科書の衣生活の文化に関する内容の記述について，着衣の起源，気候・風土，社会文化，社会的機能，衣文化に関する冠婚葬祭，衣文化に関する年中行事，和服，文様，染物，織物の10個のキーワードを設定して検討した。

着衣の起源，社会的機能に関しては，全ての教科書で項目立てがなされていた。また，キーワード1～4は学習指導要領の(4)の「イ衣生活の科学と文化」（以下衣生活と記載）の内容であり，すべての教科書で取り上げられている。キーワード5～10は「エ生活文化の伝承と創造」（以下，生活文化と記載）の内容であるが，その取り扱いに教科書による差がみられる。全てのキーワードを満たしていたものは，KA，D，TOである。この3冊について詳細をみる。KAは本文中の記述は少ないが，写真が広範囲に見られ，染物や文様の具体的な実習も取り入れられている。Dは衣生活領域の学習直後に生活文化を掲載するという，他の教科書とは異なった生活文化の章立てをしているため，学習の流れがよく，「被服」としてのまとまりがある。内容も幅広い視点から記述され，キーワードに関する記述も詳細であるが，写真は小さく文字のみという印象であり，期待される実習（キーワードに該当するもの）は含まれていない。TOは教科書で項目

表3　衣生活文化に関する記述の比較

キーワード＼教科書	KA	KY	J1	J2	D	TA	TO	H
1．着衣の起源	◎	◎＊	◎＊	◎	◎	◎	◎	◎
2．気候・風土	△	○＊	○	◎＊	◎＊	◎＊	○	◎＊
3．社会文化	○＊	◎＊	○＊	○	＊	＊	◎＊	○
4．社会的機能	◎＊	◎＊	◎＊	◎	◎＊	◎＊	◎＊＋	◎＊
5．衣文化に関する冠婚葬祭	△		△		○＊	△＊	◎	△
6．衣文化に関する年中行事	＊				◎＊	＋	＊	△
7．和服	＊				○＊	＊＋	＋	○＋
8．文様（伝統工芸）	＊＋		○＊＋		○		◎＊	
9．染物（伝統工芸）	＊＋				○＊	＊＋	＊	
10．織物（伝統工芸）	＊			＊＋	○	＊＋	＊	

注1）◎は項目として設定されている，○は本文中に詳しい記述（該当する内容が2文以上）がある，△は本文中に記述（単語もしくは該当する内容が1文以下）があることを示す
注2）＊は図や写真が掲載されていることを示す
注3）＋は実習を含む発展課題として設定されていることを示す

として設定されている数が8冊の教科書の中で最も多い。また，生活文化の中に占める衣文化の頁数が多く，衣生活に重点が置かれており，写真も多く掲載されており，高校生の興味を引きやすいものである。

キーワードに関する実習が最も多かったのはTAである。他の教科書にもすべて実習は含まれていたが，高齢者に関するものや伝統文化全般について調べてみるものなどの衣生活文化以外の記述である。

衣生活文化に関する記述に関しては，教科書による違いが顕著である。現段階の衣生活分野における文化の現状は，衣服の起源からその変遷，機能，ファッションまで多岐にわたっている。衣服の背景や伝統だけでなく，近年では高齢者に関する衣服や，ユニバーサルデザインなどの新しい時代に先駆けた文化も存在し，これからの将来を担っていく生徒たちにとって充実させたい内容だと考える。

また，学習指導要領解説では，生活文化の背景や伝統と創造に重点を置いた指導が記載されている。これらは，衣生活で取り扱われている文化とは少し異なった「人々の願いや伝統の大切さ」，「これからの人の生き方やあり方」を学習していくものであろう。したがって，生活文化の伝承と創造の中だけでなく，物質的豊かさだけでなく精神的豊かさのためにも文化を知ることの必要性を広く家庭科全体を通して学習させることが重要であろう。生活文化を衣生活分野の中で関連させて取り扱う方法として，実習を用いて関連を図り，学習後の生活実践へと発展させることができる具体的な実習例を今後さらに組み込むことが必要である。

4．衣服のサイズ表示に関する内容の記述

「家庭総合」教科書の食品の安全性に関する内容の記述について，サイズ表示例（図）中では，JIS，絵表示，寸法列記，男子の体型区分，男子の身長，女子の体型区分，女子の身長，女子のバスト，また，本文中では，サイズ表示，表示調べ，JISの計11個のキーワードを設定して検討した。

サイズ表示例（図）中のキーワードに関する記述は次の通りである。表示例内に「JIS規格による」などと記されていたのはKA，TA，TO，J1のみである。すべての教科書に，「絵表示」または，「寸法列記」のいずれかは記されている。これは既製服のサイズ表示例がどちらかで記されているためだといえる。「基本身体寸法と表示記号」については，教科書により偏りが見られ，すべて記載されていたのは，KA，TA，TOである。「基本身体寸法と表示記号」は「絵表示」，「寸法列記」に表示する必須寸法項目であるため，不可欠であるといえる。J1，D，KYは，「絵表示」，「寸法列記」のどちらか一方で，「基本身体寸法と表示記号」の掲載もされていないことから，これらの教科書においては，生徒個人が自分のサイズ表示を確認することは困難である。Hは「絵表示」，「寸法列記」の両方が掲載されていたが，「基本身体寸法と表示記号」については男子の体型，女子の体型と身長だけで，中途半端に掲載されており，充分な内容ではないといえる。

本文中のキーワードの記述は次の通りである。「サイズ表示」について，項目が設けられていたのは，KYのみである。ほとんどの教科書がキーワードのみの記述であるが，的確に表現されている。TA，J1においては，「サイズ表示」が本文では用いられていないため，表や図のみで，高校生が理解するには難しいと思われる。「表示調べ」について項目が設けられている教科書は，Dのみである。J2，TA，J1では欄外に記載され，形式はさまざま

表4　衣服のサイズ表示に関する記述の比較

キーワード ＼ 教科書			H	J2	KA	TA	D	KY	TO	J1
サイズ表示例（図）		ＪＩＳ(日本工業規格)			○	○			○	○
		絵表示	○		○	○	○		○	▲
		寸法列記	○	○	▲	○		○	○	▲
	表示記号 基本身体寸法と	(男)体型区分	○		○	○			○	
		(男)身長			○	○			○	
		(女)体型区分	○		○	○			○	▲
		(女)身長	○		○	○			○	
		(女)バスト			○	○			○	
本文		サイズ表示	▲⁻	▲⁻	▲⁺		▲	○⁺⁺	▲⁺	
		表示調べ		▲		▲	○			▲
		ＪＩＳ(日本工業規格)	▲		▲		▲⁻	○		▲

注1）サイズ表示例の○は表示例記載がされている，▲は表示例記載が一部分のみを示す
注2）本文の○は項目として設定されている，▲は語句のみの記載または欄外の記載を示す
注3）＋は詳しい，あるいは的確に表現されているもの

である。「ＪＩＳ規格」について項目を設けて記載しているのは，KY のみで，H，KA，D，J1 は「ＪＩＳ規格」に関する記載はあるが，すべて欄外に記されている。

教科書全体を通して次の傾向が見られる。「サイズ表示例（図）」として，詳しく載せてあるものは，「本文」での取り扱いは少ない。また，逆に，「サイズ表示例（図）」での掲載が少ないものは，「本文」での取り扱いが多い。「サイズ表示例（図）」において，「ＪＩＳ規格」の記載がないものも，本文を見てみると，記載されているが，J2 については「ＪＩＳ規格」にまったく触れられていない。サイズ表示にしては，基礎的な知識として，規格のＪＩＳについては記載する必要がある。

衣服のサイズ表示は繊維製品の表示例の一つである。他にも，組成表示，取り扱い絵表示，性能表示，原産国表示，その他の表示や表示者の表示などがある。自分の体型にあった衣服を購入するには，これら繊維製品の表示例を必ず確認することが条件なので，どの表示も学習する必要はある。なかでも，組成表示や取り扱い絵表示は表や項を大きく設けるなど，本文でも詳しく，サイズ表示よりも重視されていたものが多い傾向がある。一方で，サイズ表示の取り扱いは少ない。サイズ表示に対する認識が不足していると，メーカーや衣服の形態，デザインによってゆとり量が加えられている仕上げ寸法を知らず，間違った知識で購入し，衣服を着用できない可能性も生じる。そのため，衣服のサイズ表示を学習する重要性は大きいものと考える。その他の繊維製品表示例も重要な学習項目としてなくてはならないものなので，サイズ表示ばかりに学習時間を多く費やすことも難しい。そのため，一目見てわかりやすく直ちに理解できる衣服のサイズ表示に関する教材が望まれる。高校生は自分の衣服や持ち物は，自分で判断し購入する。「既製服には衣服サイズ表示がある」ということのみ学習するのではなく，学習指導要領にもあるように，体格や体型，体の動きに合った着心地のよい服を選ぶ手段としてサイズ表示を学び，自分のサイズ表示を認識しておく必要がある。また，今回使用したすべての教科書では，フィット性を必要とする衣服のサイズ表示例（9AR，92A4 など）を載せていても，「フィット性を必要とする衣服のサイズ表示例」とは記載されていない。これでは，生徒は当然，すべての衣服の表示サイズだと認識してしまうことが予想される。しかし，フィット性を必要としない衣服については，聞きなれた「M」，「L」という表示に各部位の範囲表示が記された表示である。フィット性を必要する衣服の表示例とフィット性を必要としないものの表示例の区別をつけて指導することも重要である。

Ⅳ．おわりに

生活課題のうち，食品の安全性，食と栄養，衣生活文化，衣服のサイズ表示に関して「家庭総合」教科書の記述について検討した。「家庭総合」がめざす生活課題の解決を解決する力を培うためには，現代の生活課題を高校生に認識させることがその前提にあり，そのためには，教科書の記述内容に関して，次の点を改善することが不可欠であると考える。食品の安全性については，新たな現代的課題を取り上げること，また，食と栄養については高校生の実践を促すための具体例を示すこと，衣生活文化については実習例を多く取りあげて理解を深めること，サイズ表示に関しては的確に示すことである。

注

1）文部省「高等学校学習指導要領解説　家庭編」，開降堂，2000

2）分析した平成 16 年度使用「家庭総合」教科書は，開降堂「家庭総合－明日の生活を築く－」，大修館書店「家庭総合－生活の創造をめざして－」，実教出版「家庭総合－自分らしい生き方とパートナー」，実教出版「家庭総合 21」，東京書籍「家庭総合自立・共生・創造－」，第一学習社「家庭総合－生活に豊かさをもとめて－」，一橋出版「家庭総合－ともに生きる－」，教育図書「家庭総合」である。